

第2回「部活指導に時間をとられる教師たち」

学生時代、学校生活の大半が部活動だったという人は多いのではないのでしょうか。記者もその一人で、授業の思い出よりも部活動のことが懐かしく思い起こされます。

前号から始まったこのシリーズの第2回は、高等学校の教職員側から見た部活動について取り上げます。部活指導を天職と思っている教員がいる反面、土日の休みも無くヘトヘトになっている教員もいます。前回言い足りなかったA氏の部活指導を巡っての思いをお伝えします。

記者「高校の教員は必ず一つや二つ部活動の顧問に就きますが、負担に感じている教員も結構いるのでしょうか。」

A氏「部活動の顧問と生徒とは一生の長い付き合いになることもあり、生徒の成長が見られる面では楽しみなどところもあります。成功する生徒の一部にはプロの選手やオリンピック選手になるなどうれしいこともあります。その成功の陰には大きな矛盾もあると思っています。一つは部活動と勤務のあり方です。二つには入試との関連です。」

記者「以前、県教委から部活指導にどれくらい時間を掛けているかという実態調査が行われましたが、100時間を超える人がたくさんいました。放課後は毎日3～4時間、土日もほぼ毎回という人もいました。」



A氏「部活指導は教員にとって義務ではないはずですが、皆どこかの部の顧問となり、しかもそれを校長の承認のもとに行っ

ています。仕方なく顧問に就いている人の方が多くはないのでしょうか。実態調査に見られるように、平日の勤務時間を超えての指導は無報酬で、土日の指導はわずかな手当てで行われています。週40時間という労働時間は絵に描いた餅ですね。家庭生活を破壊してまでやっていると言っても言い過ぎではないと思います。現に体を壊し

て一歩間違えれば死に至るような人も出ています。一方で部活を利用して名を上げ出世しようという人もいます。」

記者「大阪で体罰を苦に自殺した生徒がいましたが、県内でも精神的苦痛により登校できなくなった生徒がいました。行き過ぎた指導では済まされない事も起こってますね。」

A氏「間違った勝利（成績）至上主義でしょうが、こういう考えを持った人は少なからずいますね。校長は熱心のあまりと言うけれど、文武両道を目指して少しでも良い成績を上げてもらいたいと思っており、極端な指導を黙認している部分も感じます。それから一部の極端に熱心な教員に引きずられ、自分も部活指導を優先にしなければと思い、授業研究がしたくてもできない教員もいます。」

記者「昔聞いた話で、運動部の顧問にあらずん



ば教員にあらざと言っている学校があったようですが、先生の学校ではどうですか。」
A氏「校長は、教科の教員として採用されたのだから教科指導をしっかりとやって欲しいと言っていますが、部活動で良い成果が出なければ責められます。部活指導は肉体的にも精神的にも大きなストレスとなっています。私はかねてから部活動指導、特に運動部指導は学校教育から切り離し、別のスポーツクラブのような形式にするべきと思っています。教員は必ずしも受け持った部活動の経験があるわけではありません。技術指導はできないけれどやらざるを得ない立場に置かれることがよくあります。これは生徒にとっても決して良いことではないと思います。さらに部活動指導を優先し、教科指導がおろそかになっているとしたら本末転倒と言わざるを得ません。」

記者「二つ目の入試とのかかわりについて聞かせてください。」

A氏「高校の部顧問は中学校を訪問し、実績がある受験生を発掘し接触します。それ自体はご苦労なことです。入試において部顧問の推薦は合否を決定する絶対的な権限を持つこともあり、果たして公正な入試なのかという疑問を感じています。予め受験生を知っているというのは公正なのかどうか。それからこういう入試方式で入ってきた生徒は部顧問には絶対的服従で、そうでない教員には人を見て態度を示す生徒が居ることも事実です。生徒の成長と進路にも問題を起こすのではないかと思います。」

記者「教育の公平性を侵す危険を含んでいると言えますね。体罰自殺事件がマスコミを賑わしていますが、これを機に部活指導のあり方が根本的に検討されることを期待します。ありがとうございました。」



冒頭に学生時代の思い出は部活動と書きました。当時（40～50年前）も顧問はいましたが、生徒が自主的に活動していたように思います。今は過剰とも言えるほど顧問の関わる時間が増えています。ある種目でインターハイに出場するほどの強いチームを指導していた某氏は「教師にとって一番大切なことは教科指導、二番目が担任や生徒指導などの分掌の仕事、三番目は組合活動や自己研修、部活動は最後」と言っていたのを思い出します。部活動は教員のためにあるのではなく生徒のためにあり、だからこそ生徒の自主性を尊重する姿勢が何よりも大切だと言っていました。しかし、A氏が語るように多くの教師は部活指導に追われ、教科指導や自己研修に十分な時間

がとれないでいます。土日に大会があっても代休はとれず、休みのない日が常態化しています。入試については性質上あまり触れられませんが、問題の一端は発信出来たのではないかと思います。今回は進路指導のあり方についてとりあげたいと思います。

